

《漢文の基礎知識》

白文はくぶん：中国文のように漢字のみで書かれた文章

訓読くんでん：白文に句読点・返り点・送りかなをつけ日本式に読むこと
書き下し文かきくだしぶん：訓読を漢字かな交じりでわかりやすくした文

訓点くんでん：日本読みするための記号・送りかな
返り点かえりてん：読み方の順序を示す記号のこと。

① れ てんレ点 一字とばして、先に下を読む場合に使う。

2 レ 1

例 読書ム ヲ

(書を読む)

3 レ 2 レ 1

例 知去君ル ルラ ガ

(君が去るを知る)

② いち に てん一一点 二字以上において、上に返る場合に使う。

3 ニ 1 2 一

例 思故郷フ ヲ

(故郷を思ふ)

③ じよ う ちゆ う げ てん上中下点 一二点をつけると、重なる場合に使う。

6 下 1 4 ニ 2 3 一 5 上

例 有朋自远方来リとも より タル

送りがなはカタカナが原則。 (朋 遠方より来たるあり)
ふりがなはひらがなが原則。

表現

四つともに関係あるもの

① レ曰はく、ニ…(会話の引用) 訳「レがおっしゃるには、ニ…」

一つめの漢文に関係あるもの

② レずや (反語) 訳「(なんと) レではないでしょうか。」

三つめの漢文に関係あるもの

③ レれば則ち… (原因結果) 訳「レすることにより、その結果…」

④ (対句) 「レ学びて…」と「思ひて…」

四つめの漢文に関係あるもの

⑤ レ…しかず 訳「レ…にはかなわない。」

置き字…文法的な役割を果たすだけで、訓読のときに読まない文字。

而、於、矣

《学びて時にこれを習ふ》「論語」からNO1

「論語」は①（ ）の死後、その弟子たちがその言行・教えを
まとめた物である。

孔子は②（ ）古代の春・秋・戦国時代に現れた③（ ）
家で、人格や道徳を高めることによる治世を理想とした。彼こそは人類始
まって以来の「至聖」と呼ばれた。

〈漢文〉

子曰、「学 而 時 習 之、不 亦 説 乎。有 朋 自 遠 方
来、不 亦 楽 乎。人 不 知 而 不 愠、不 亦 君 子 乎。」

〈書き下し文〉

「子曰はく、「

〈口語訳〉

先生が④（おっしゃった）、「〜学問をして、⑤（
繰り返し返しおさらいをし、⑥（ ））、なんと⑦（
）。こうして勉強していると、学問の道に志す人が遠い所からも訪ね
てきて、学問について話し合う、なんと楽しいことではないか。自分の勉
強が人から認められないことがあっても、⑧（ ）
それでこそ、⑨（ ）ではないか。」

〈口語訳の注意点〉

・ 子…男性への敬称。先生（ここでは孔子）。

↓子曰はく（先生がおっしゃった事には）

・ 而…接続詞。「そして」の意味。読まないことが多い。

・ 不亦〜乎 「なんと〜ではないか」の意味。反語。

・ 君子…人格者。徳と知を兼ね備えた人。

《学びて時にこれを習ふ》「論語」からNO1

「論語」は①（孔子）の死後、その弟子たちがその言行・教えをまとめた物である。

孔子は②（中国）古代の春秋・戦国時代に現れた③（思想）家で、人格や道徳を高めることによる治世を理想とした。彼こそは人類始まって以来の「至聖」と呼ばれた。

〈漢文〉

子曰、「学 而 時 習 之、不 亦 説 乎。有 朋 自 遠 方 来、不 亦 楽 乎。人 不 知 而 不 愠、不 亦 君 子 乎。」

〈書き下し文〉

「子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。」

朋遠方より来たるあり、また樂しからずや。

人知らずして愠みず、また君子ならずや。」と。

〈口語訳〉

先生が④（おっしゃった）、「〜学問をして、⑤（機会があるたびに）繰り返しおさらいをし、⑥（習熟する）、なんと⑦（うれしいことではないか）。こうして勉強していると、学問の道に志す人が遠い所からも訪ねてきて、学問について話し合う、なんと楽しいことではないか。自分の勉強が人から認められないことがあっても、⑧（不平や不満を抱かない）、それでこそ、⑨（理想的な人格者）ではないか。」

〈口語訳の注意点〉

・ 子…男性への敬称。先生（ここでは孔子）。

↓子曰はく（先生がおっしゃった事には）

・ 而…接続詞。「そして」の意味。読まないことが多い。

・ 不亦〜乎 「なんと〜ではないか」の意味。反語。

・ 君子…人格者。徳と知を兼ね備えた人。

《学びて時にこれを習ふ》「論語」からNO2

〈漢文〉

ハク

メテ

キラ

レバ

シキヲ

ベシト

もつテ

タル

子曰、「温故而知新、可以為師矣。」

〈書き下し文〉

子曰はく、「

〈口語訳〉

先生がおっしゃるには、「①（ ）を十分に理解し、新しい意義を発見できるなら、人の師となる②（ ）がある。」

〈漢文〉

ハク

ビテ

ギレバ

ハ

チ

シ

ヒテ

ギレバ

バ

チ

子曰、「学而思則罔。思而不学則殆。」

〈書き下し文〉

子曰はく、「

〈口語訳〉

先生がおっしゃるには、「くむやみに読んだり教わったりするだけで、③（ ）心がかくらくて④（ ）。

自分の考えだけに頼って、⑤（ ）。

独断に陥り、⑥（ ）。」

〈漢文〉

ハク

ル

ヲ

ハ

カ

ム

ヲ

ニ

子曰、「知之者、不如好之者。」

好之者、不如樂之者。」

〈書き下し文〉

子曰はく、「

〈口語訳〉

先生がおっしゃるには、「何かについて知っている人は、その何かを⑦（ ）にかなわず、またその人も、それを⑧（ ）

にはかなわない。」

《学びて時にこれを習ふ》「論語」から202

〈漢文〉 ハク メテ キヲ レバ シキヲ ベシト もつテ たル

子曰、「温故而知新、可以為師矣。」

〈書き下し文〉
子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、もつて師たるべし。」と。

〈口語訳〉

先生がおっしゃるには、「①（過去の事柄）を十分に理解し、新しい意義を発見できるなら、人の師となる②（資格）がある。」

対句

〈漢文〉 ハク ビテ ズレバ ハ チ シ ヒテ ズレバ バ チ シ

子曰、「学而不思則罔。思而不学则殆。」

〈書き下し文〉
子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。」

思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

〈口語訳〉

先生がおっしゃるには、「くむやみに読んだり教わったりするだけで、③（よく考えなければ）心がぐらくて④（理解があやふやになる）。

自分の考えだけに頼って、⑤（広く先人の意見や知識に学ばないと）独断に陥り、⑥（危険である）。」

〈漢文〉 ハク ル ヲ ハ カ ム ヲ ニ

子曰、「知之者、不如好之者。」

対句

好之者、不如樂之者。」

〈書き下し文〉

子曰はく、「これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむものに如かず。」と。

〈口語訳〉

先生がおっしゃるには、「何かについて知っている人は、その何かを⑦（好きな人）にかなわず、またその人も、それを⑧（楽しんでいる人）にはかなわない。」